

欲張りな学校②

校長 山田 浩之

冬のお楽しみ、児童会たんぼぼ祭り
で三年生のある教室に入ろうとした
ところ、受付で呼び止められ、次の説
明を受けました。

これからルールを説明します。ま
ず、マトの説明をします。マトには
三つの大きさがあります。一番右の
スペースは初心者向けです。一番左
のスペースは上級者（上手い人）向
けです。真ん中のスペースは、：（中
略）：これで説明を終わります。そ
れではお楽しみくださいませ〜！

端末画面に表示されたこの説明文
は、私（客）に向けて提示され、受付
の子どもが、淀みなく読み上げました。
この学級では、いわゆる輪ゴム鉄砲に
よるの当てゲームを催していたので
す。

の当てゲームの面白さもさること
ながら、私は、この説明文に感心しま
した。自分たちが考案した催し物につ
いて次々に入ってくる客に対して、端
的に、しかも漏れ落ちなく、そのやり
方を説明しなければなりません。

国語学習の実践を重ねてきた身と
しては、たんぼぼ祭りでの説明文の作
文がどれほどパワーのある学習場面
か、瞬時に気付きました。自分たちの
催し物を成功させるといふ願いを実

現させるために、真に迫った問題（こ
こでは、一年生から六年生までの誰に
でもルールを理解してもらうこと）を
解決しなければなりません。工夫を重
ね、主体的に文を練り上げる子ども
姿が容易に想像できます。

以前、先輩教員に特別活動（児童会
活動も特別活動の一部）の学習原理を
「為すことよって学ぶ」と教えられ
たことがあります。子ども自身に解決
したい問題があり、それを解決する
（為す）過程を通して、生きて働く力
が身に付くということです。

これに対して国語科における説明
文を書く学習は、限られた時間の中
で学ぶべき技能を用いて説明文を書き
上げることが求められます。例えば、
「て、に、を、は」や、言葉の選び方、
説明文の構成や段落、書き出しや文章
のまとめ方などです。これらを六年間
積み上げることで国語の学力、すなわ
ち文章を書く知識や技能が身に付い
ていくのです。先のゲームの説明文も、
国語科の学習で身に付けた技能があ
つての説明文です。

学校には、特別活動や生活科、総合
的な学習のような体験を通しての学
びと国語科、算数科のような積み重ね
ていく学びの両方が必要なのです。